

瀨越文助 筆『文化五年伊勢道中旅行記』(三)  
みちつね

佐 竹 昭

前稿(一)(二)に引き続き、芸州倉橋島瀨越文助・某通恒(みちつね)らの『伊勢道中旅行記』二種を翻刻する。今回で一応完結としたい。今回は、伊勢立立から近江多賀社参詣、京の見物と高野登山を経て帰国するまでが対象となる。文助の旅行記は、伊勢到着以後、空白が続き、近江草津から京に至る間だけ記入されている。一方、通恒のそれは、上冊で大阪到着まで、続いて中冊に高野登山から倉橋帰着直前の屋久比島<sup>(おくらじま)</sup>までを記している。従って、今回は、通恒の旅行記を中心に一段組みとし、一部文助の旅行記がある部分だけを二段に組むことにした。そのほか、通恒の旅行記には、道中の出費の覚えの一部や数種の歌草が記され、下冊には全行程の簡略な一覧なども記されているが、まとまったものではないので、その翻刻は行わない。

さて前稿(一)(二)の解題に、簡単な書誌や翻刻の意図、内容の特色などを述べたので、今回はその後の瀨越氏の旅行について、若干の紹介をしておく。

前稿(一)でも紹介したように、現在調査した限りにおいては、当家には、この旅行記を最初としてたびたび各地に旅行した記録を残しているが、それは歌日記・句文集などとして次第に洗練されていく過程でもある。この旅でも、折にふれ歌を詠んでいるが、その意味では原点に位置するものである。この旅の次は、文化十一年の多賀社参詣(紀伊半島経由)であるが、木綿問屋瀬戸島伊予屋の船で五月十八日に音戸を出帆、二十三日に大坂着。宿は前回同様、槌屋七兵衛で、この宿は「倉橋宿」と記されている。その後、和歌山から紀伊半島を一周し、熊野を経て伊勢に着き、やはり御師松田氏宅に寄る。多賀社参詣後はまた京に出て各地を見物、特に芝山持豊に弟子入りを許され、御歌をいただいている。文

助は和歌の趣味が中心であつたらしい。

文助の子、雅俊（通称正之助、号は篤民、享和元年〔嘉永六年〕も、倉橋島庄屋などの役務のあい間に旅を好み、文政三年に伊勢参宮、この時は東海道をさらに東に向かったが、父の病の報を得て急遽帰国。『東遊紀行』を残す。後、富士山を見られなかった彼のために、頼聿庵が特に「芙蓉ノ図」を描いて贈っている。天保三年の『津久志日記』、同七年には出雲を旅し、やはり旅行記を残す。嘉永五年には九州遊覧にでかけ、『西遊紀行』を残す。この時は、頼聿庵に揮毫を依頼した木額を太宰府天満宮に奉納している。彼はまた、漢籍を藩儒加藤氏に学び、和歌は父に、俳諧は飯田篤老の指導を受けている。これらの旅行記については、また改めて御紹介する機会もあるかと思う。

また、嗣子正義（姻戚藤井氏、通称力太郎、号は長洲、松圍、文政四年〔万延元年〕）は、頼聿庵の塾に学び、学友に河野小石がある。しばしば太宰府天満宮に参拝。この雅俊・正義二代を通じて、ほかにもさまざまな文芸活動を行っている。聿庵の指導を受けるなど漢詩もよくしたが、特に俳諧を好み、幅広い交流を行い、島内にも同好者を得てたびたび俳諧を興行し、句集も多く残している。正義の時代には、東西の学者・文人・画人らとの交際が盛んになっており、これらの遺品が多く残されている。

現在、倉橋町の依頼により、町史編纂のため、尾曾越家の御理解を得てこれら資料の全面的な調査を行っており、近いうちにその全体像が明らかにされると思う。末筆ながら所蔵者の尾曾越文亮氏、倉橋町教育委員会、および、調査の御指導をいただいている本学部の頼祺一先生・朝倉尚先生にお礼申し上げるものである。

### 通恒の旅行記

松坂

廿一日 (五世) 同所<sup>(五世)</sup> 同所出立。頼の分朱三つ出ス。夫より成平忘井の水ヲ見物。別れ行 都の方の 恋しきにい

ぎ結ひ見む 忘井の水 斎宮甲斐。夫より六軒茶屋ニ休。但シ朝五つ上刻ニ到ル。夫より烏道落合社アリ。夫より雲須川渡り、海迄六町計アリ。夫より矢野村ニ到り、ゴガラス明神入口ニ桜ノ場々アリ。此長サ五、六町もアリ。し極景地ナリ。夫より参詣ス。下向。茶屋佐七方へ休シ茶飯給ヘル<sup>(温青豆・茶ニ竹)</sup>。  
夫より浜へ下り沖を見合、ことほるかニ景色よし。松原ことけゆふ山ニ広ク風色猶々よし。夫より津道通り

津  
一身田

ニゆく。夫よりエンマ堂前梅尾惣助。夫より津長橋四十五間アリ。夫より津恵日山観音寺。夫よりとうせい橋通ル。余程五十間もアリ。夫より一身田善修寺高田門跡ノ寺へ参詣。本堂三十間四面、皆惣ケヤケ。又阿弥陀堂十八間四面、惣ケヤケナリ。上人ノ御玉屋アリ。外ユハイ堂アリ。夫よりくぼ田村山田屋徳右衛門方へ宿とり、皆々髮結。其間合ニ万五・拙・於半七□興遊致し、勞散ス。

関町  
筆捨山

廿二日 同処出立。夫より十丁余り行、式十五丁の松の馬場アリ。其真平ニ銭掛ノ松アリ。是ハ枯木ニナリ。夫より高野尾藤屋ニ依り休ス。夫よりもく本茶屋（本茶屋）カド屋ニ依り休ス。夫より半り行テ林村江戸屋茶屋ニ依り名物湯豆腐アリ。夫より川ヲ渡りせき町を通り地蔵へ参詣。其前茶屋山田屋へ依り中飯認ム。夫より一の瀬村茶屋硯屋ト云ノニ休シ、向の筆捨山を見上、成程古人狩野の筆をもすてられし景色見ゆる。夫より村々アリ。坂の下亀山御領へ入り、町内を通り、能処ナリ。夫より鈴鹿権現へ参詣ス。腋、田丸社アリ。又向ハイセノ海ミユル。又社四、五処アリ。夫より鈴鹿峠茶屋アリ。筆すて見物ス。夫より朝日弁財天へ参詣。夫より清瀧観音ニ参詣。夫より田丸橋渡り田丸正一位大明神ニ参詣。坊遣教院ト云。夫より土山村へ行。鈎辺屋平蔵ト申へ宿ス。地産明ぼの茶たべる。尤此ちヤ一斤壺歩ナリ。

鈴鹿峠

土山

岩ふる山ノ本の茶屋やすらいて、筆捨山をいすくと問ければ、是なんかのコウホウゲン写し絵図して筆を置たるより、世に筆捨山となん世につたへ申と聞て  
うつさじと 心を染し おも影を はかりてぞみる 筆すての山 雅休

同

立よりて 心をちゝに つとせとも こと葉も絵にも 筆捨の山 通恒

川掛

廿三日 土山道ハスレニ京道・多賀道アリ。夫より三象川を渡り、一の瀬村茶屋ニ休ス。夫より多賀道具掛へ行ク。夫より村々川を渡り、高つけ田村ニ多賀・伊勢道アリ。夫より山本村。夫より込風村（小湊村）を通り。夫より石原村通り。夫より岡本井筒屋弥三右衛門と申茶屋ニ中飯認ム。又休眠ス。夫より大塚村とうる。夫より小草村茶屋ニ依り休ス。夫より筋向を見れば百足山程近く見ゆる。其茶屋よりハ西ニ当る。夫より今在家村通、夫より中野村通り、八日市両邑ノ堺ニ陰山タロウボウ明神アリ。甚蔽之山ナリ。夫より八日市八幡屋佐兵衛方へ泊り。尤夕方より雨メ降り。其夜雨降り。

愛知川

高宮

多賀社

愛知川

武佐

百足山 (三上山)  
野洲川

草津

大津

廿四日 雨降り。同処出立。夫より所村。夫より野村。夫よりおく村。夫より多ち川(三丁余もアリ)。夫よりくほち村。夫より枝村。夫より千度村。夫より石邑(四十九段)村。夫より勢松村。夫より葛籠

村。夫よりほうじ村。夫より川を渡り高宮の町を通る。地産高宮布嶋多服出ス処ナリ。夫より石の鳥居ワ

キ仙台屋ニ休、認。夫より多賀へ三十町一里ナリ。夫より御社へ参詣。夫より磐若院へ立依り神酒拝ス。

又御本社ニテ御神樂上ケル。夫より下向。八つ過より晴ル。夫より愛知川竹の子屋彦右衛門方へ宿とり泊。

廿五日 同処出立。曇ル。夫より愛知川前へ戻り、川を渡り、瀬町。夫よりおぼた。夫より隠手村。(金田村也)

り市田。夫より北町。夫より南町。夫より清水(清水)賀原。夫より西大磯・東大磯。此所東光寺ト云寺アリ。井

筒屋弥三郎茶屋ニ依り休。夫より西原。夫よりむさ本宿ナリ。夫より具足山妙威寺アリ。夫よりアボン

村。夫より東横関村。夫より鏡村茶屋ニ依り中飯認ム。又一睡ス。夫より三ノ原。夫より小松原村。向茶

白岩アリ。三ノ原安村隔ニ百足ノ山アリ。夫より安川を渡時、橋錢十文と云。内おば様籠乗り先へ参らる

ゝ跡、拙、好藏を私家来として渡り。さアゝ姉者人お浦殿、コレエゝト渡られよ、跡に残りし伯父様

万五郎丈、清松丈、僕平作・茂作江申へ、先ニ渡られし籠三人並娘子式人の橋賃は如何。此ものへ呉請け

れば、平作・茂作、是はめつそな事、シャイナア先きに渡られし、御尋様ニ囉へと云ケレバ、万五郎丈

取懸り何ケ云ければ、ふりきるゝ渡りけり。夫より森山町通り、宜敷処なり。夫よりへそ村。夫より松

林路ニ休、管ス。夫より草津丸屋徳右衛門と申宿ニ泊り。

### 通恒の旅行記

廿六日 同処出立之節、浜田屋のに得時ふしきと

逢イ、草津丸屋徳右衛門方より同伴ニ而大津はと

の内船屋迄。瀬田之橋所より川船ニ乗り石山寺へ

参詣ス。夫より右之大津はとの内船屋ニ而中飯認

ム。二階座敷、向を見渡せば白髭之男神、平之暮

雪、かたゝの落雁、矢橋之帰帆、又百足山も見ゆ

### 文助の旅行記

あわつの原にて三・四年已前カタキうち有り。合

手ハはたもと服部久右衛門ト云。打人ハ八年つけ

ねらふよし。

栗大木の石、草津より沓里北道路、藤屋弥左衛門

与云者持参。諸国御大名様方御立寄り御覽被遊候

由。其外色々之石数多有。凡七日も懸り見る事之

唐崎

三井寺

醍醐寺

宇治平等院

伏見稻荷

る。夫より清丈と同道ニ而出立。彼四人は京道行、此方ハ唐崎<sup>(ト)</sup>沓<sup>(ト)</sup>一松見物ス。夫より下向。中塗ニ而七つ時雨降り、茶屋ニより。三井寺へ参詣ス。夫より俵トウダ龍宮より鐘ヲトリアケラレンヲ三井寺ニアリ。又是ニ口援ノ趣キアリ。夫より下向。宿井筒屋藤兵衛宅ハ三井寺鳥居前ナリ。廿七日 同処出立。夫より大津町はづれ蟬丸大明神へ参詣。夫より村々アリテ下ノ醍醐寺へ参詣。此処ニ三本の院宮様アリ、夫より六地藏すと屋姥茶屋ニ依り中飯したむ。夫、宇治へ沓里。夫より黄檗寺へ参詣。甚伽藍ふとく。夫より十番の三室戸寺へ参詣。宇治ひやうとう院、このゑさまの寺なり。頼みつ公ノ造寺なり。ほうおふの容に作なり。扇の芝ニ而切服致し処ニ松アリ。頼政の、落さきて みしなかならむ 後の世に ものゝふの名も いかでのこらん 江戸佐藤氏宣張。夫より離宮明神参詣。夫より朝日恵心院参詣。夫より興聖寺へ参詣ス。甚宜処なり。前は宇治川なり。是ハ大津ノ湖水流レナリ。夫より興聖寺前小松屋庄右衛門方へ宿とり。亀の石アリ。其夜雨降り。廿八日 同雨降り。夫より大亀谷村仏国寺下寺アリ。夫より藤の森崇道天王前ニ薬師如来アリ。夫より伏見稻荷大明神へ参詣。甚社地ナリ。但し通り

由。唐崎之一松よりしらひげ明神迄凡七里余、大社也。唐崎より式里余行、まの浦有。其北ノ方ヲしがの都と云。又唐崎ヲしがの都ト云故、しがのからさきとつゞけり。夫より前々しが村と云所有。さてもいにしへのミヤ也。唐崎より前廿五丁前、小キ茶屋有り。是ニテ往来共と休ム。唐崎へ参りかけ夕立ニあい、又帰りニも雨ニ逢ひ。唐崎より四方ヲなめける。風景面白し。夫より三井寺へ参ル。よき処也。廿六日 朝、草津宿丸屋徳右衛門方立出。夫より七、八丁行、うばかもち有。庭築山面白也。已前之亭主は罪有り永牢、家内ハ追放、今ハ家主替ル。夫より式里計下り、セたの橋有り。此橋もとに石山大津江之渡船有り。此船ニて渡ル。石山参り。夫より小橋の下ヲ通り、あわつか原ヲ左リニ見て通り、川中川はたニふなこひヲ取ル竹かき有り。広島のかたひのひゞニ似り。ゼ、の御城ヲ左リニ見て通ル。大津南ノ入口ノ茶屋前ニ船つける。茶屋ニてしらみの汁、源五郎ふな、いろいろにしめニて屋飯したむル。新六殿ニ草津宿ニて朝逢ひ、夫より同道、大津より分ル。廿六日泊り、三井寺之麓茶屋いつゞ屋藤兵衛へ泊ル。至而よろし。

三十三間堂

三条大橋宿

筋ニアリ。夫より前茶屋ニ依り休ス。夫より京町へ入。廿八日九つ過、三十三間堂参詣ス。夫より大仏殿焼庭并新仏へ参詣ス。夫より大仏門前茶屋ニ依り中飯認ム。夫より三条通へ行。夫より三条通り大橋豊後屋友七方へ宿とり泊ス。

誓願寺  
蛸薬師

廿九日も相続雨降。皆々蟄居。昼後、万伍・順兩人平作ヲツレ誓願寺・蛸薬師へ参詣。又天神へ参詣。亦姉小路ニ淨瑠璃ヲ聞ク。吾人分十二文筒。

二条橋・四条橋流矢

夫より浦町ヲ通り宿に帰り夕飯給ス。夫より祇園通り行き掛り処、亦雨降り。途中より帰り。又大橋へ行き、大水ヲ見物ス。二条橋流レ、亦四条橋祇園通りの四条橋水ニ流レ、夫より宿に帰り臥ス。其夜雨降り。

東山

百万遍  
大文字

三十日 相続キ雨降り。尤快清ノ趣ニ相見ヘル。当日は祇園社ノねりモノト云テ甚々面白キコトアリト云コト聞ナガラ、東山同日少々天気ヲ以テ見物ニ参詣ス。次第先ツ三条大橋東腋ヨリ加茂川通りへ下り百萬遍へ参詣、道向ニ大文字山ニ毎歳七月十六日ニ焼、雷火ト云テ其山ニ火ヲ焼キ、是ハ弘法大師ノ製ナリ。夫より春日大明神参詣。夫より天ノ岩戸トへ拜ス。是ヲ神楽岡ト総名ニ称ス。

神楽岡  
吉田社

夫より吉田ノ社へ参詣ス。亦關ハサガ天皇ノシン筆ナリ。同安部ノセイメイ土尊ノ筆モ。其關ニ日

廿七日 朝五つ時出立。夫より大坂山へ通り、蟬丸社へ参ル。大坂山の名産ハそろはん・針、其外

大津絵など数々有り。大坂ヲ下り茶屋にて休ム。夫より京ふしみの分レ通り印之石有り。夫より沓

里余下り、又茶屋ニ休ム。夫より十一丁余下り、<sup>(電傳)</sup>たいこ村有り。寺へ参ル。女人堂迄登ル。下のたいこ寺ニ三宝院の宮様おはします。夫、沓里計

行、六地藏と云村有り。村はつれの茶屋にて昼飯致ス。夫よりうぢへ何程、向沓里有与答う。屋茶

屋より出テ宇治へ入。アウハク迄十式丁。夫より三室戸寺へ参ル。夫より町へ入橋ヲ渡り、ヒヨウトフ院へ参ル。此寺往古ハ七堂ガランニテ金カナ

ク故、川ニウツルガ山吹色成ニより山吹の瀬ト謡フヨシ。夫より橋ヲ又渡り東へ登り正一位離宮太

神社へ参ル。朝日山恵心院ト云へ参ル。夫より興聖寺へ参る。帰りニふもとの茶屋小松屋トマル。

亭主へ朝日山尋ル処、上ノ山ヲ云ト答。川中ニ浮島ト云有り。六十年已前に大ニ山ト崩レ少シ残草

島アリ。桂木島ト云ハ橋より北ニ有り。已前ハ南ハタニアリ。大岡川ヲふしみに付タモフニより川

ノ西よりニ有ルト云リ。

宇治の川のはとりに宿りけるよ、五月雨いとふり

りければよめる

極楽寺

真如堂

全戒光明寺  
銀閣寺

本最神祇齋場。同日高日宮トアリ。同神内明星水アリ。同ソリ橋アリ。甚此社ハ嚴尊ノ地ナリ。夫より吉田下向道、虚空堂アリ。夫より辨財天尊ノアル東北ノ院へ参詣ス。此地ニ連理ノ木アリ。是ハ椿トサ、ン花合交木ナリ。同和泉式部ノ歌塚アリ。同靈水ノ井アリ。夫より鄰寺極楽寺ニ陽合桜アリ。夫より日本大稻荷大明神へ参詣。同白狐ニ乗唐土より渡ラレント云。誤ラクハ偽ナラシ。夫より真如堂極楽寺へ参詣ス。ワキニ三重ノ塔アリ。夫より黒谷紫雲石ヲ拝ス。是ハホウネン聖人ノ御腰掛ケられし石ナリ。ワキニ三重ノ塔アリ。是ハ文珠堂ナリ。夫より同地熊谷入道行年七十五ニテ往塚アリ。同処ホウネン聖人ノ墓アリ。熊谷・アツモリノ首ヒヲ包ミタルキヌニテ聖人ノ御絵画アツモリノ首ヒヲ包ミタルキヌニテ聖人ノ御絵画アリ。同兜ノ池アリ。熊谷鎧掛ノ松アリ。阿弥陀堂観音堂アリ。新黒谷紫雲山金開光明寺は浄土根元地ナリ。同石ノ橋掛、蓮池アリ。夫より銀閣寺へ参詣ス。代錢ヲ以開帳ス。尊氏・義政ノ建立ノ地ナリ。其寺ニ四状半ノ間アリ。則日本従是四状ノ間初ル。此殿ヲ真空殿ト云。甚築庭ノ躰ハ風雅ニ見ユル。処ロく名多クアレ共、少々左ニ記ス。

(通恒の旅行記、続く)

世にふりし 宇治のかりねの さひしさに  
猶音そふる 川の五月雨  
廟堂院へ詣ふて、頼政の跡を尋けるに、あわれ名のミ残りければ

うもれ木の その歌人も 寺の名も  
はつかに残る 宇治の山かけ  
うもれ木の そのうた人の おもかけも  
名のミに残る こけのふる寺

宇治川より東南ノ詰、一軒茶屋小松屋庄右衛門、螢見の茶屋と云。すし向ひに早蕨ノ山有。古しへさわらひ御殿ト云御殿有りし所也。喜撰法師住給ふ山ハ東ノおくニ岩山有り。う治ノ町より凡式里程ノおく也。今、庵りハなし。岩屋様成もの有耳。同所廿八日朝出立。出かけニ通円ト云茶屋ニテ茶求ル。喜撰式斤、山吹式斤、祝円半斤、別籠三百匁。段々茶ヲ入のます。一橋之三番ト云処、少し出し有。是ハ茶カ茶の水くまし給ふ処也。橋ヲわたり、西ニ脇ニ小社有。橋姫之御社也。町筋見ゆる。夫より伏見通へ出ル。藤森へ参ル。夫より稻荷社へ参ル。三十三間堂。大仏殿、今ハかり堂ニ大仏尊ノ小キ成仏ヲ入。大鐘有り。豊後屋友七下人新六、おしけ、おはる。黒谷法然上人の御廟堂より、京町松間に見ゆる。寺多し。

鹿カ谷

南禪寺

比叡山

知恩院

池ノ中ニ山アリ。是ヲ仙人国ト云。(分界標) 文カイキウ。(迎仙標) ゲイセンキウ。北斗石。(卷星) 落斗石。(卷星) 寿世石。(卷星) 細川石。(龍標) 両羽橋。(龍標) タツキン橋。龍煙石。(臥雲) 過雲橋。大裏石。ソング石。(龍頭) 天道石。(天中標) 山中石。山奔子石。同外ニ多端アレトモ難記。是等ノ石ハ諸国大名衆ノ御寄進ナリ。同月見ノ庭ノ跡アリ。同同寺ニ東求堂アリ。此堂ノ屏風ニリウアミノ筆アリ。狩野永徳、同雲コク・シウトク。同トサノミツオキ。同腋ニカイホウイウセツ堂アリ。此処ニ明ノ林龍ノ鹿ノ筆アリ。同ハセ川トウテツ筆アリ。其外多ク名筆アリ。夫より獅子ヶ谷宝念寺(法念)ヘ参詣。夫より安樂寺参詣ス。此寺ニ松虫・ス・ムシノ塚アリ。夫より獅子谷万無寺(光聖)ヘ、尼寺ナリ。是ハ公家方ノ尼ニナラレントキ此ニ籠セラル。夫よりトウ、ン寺(光聖)ヘ参詣ス。此寺ニ瑪瑙石手洗鉢アリ。長四尺ニ口副一尺五寸アリ。夫より菩薩寺(南禅)ヘ参詣。此寺ニヤウクワン大尚植ラレシ悲田ノ桜アリ。同菩薩本地アリ。大寺ナリ。夫より永観寺下向。夫より南善寺(南禅)ヘ参詣。同三門アリ。是ハ本堂より大ナリ。遠藤和泉ノ建立ナリ。二階ハ極菜色ナリ。門前ニ石燈籠アリ。大ナリ。日本ニ三燈ノ一ナリ。先ツ江戸上野ト尾張アツタニアリ。夫より少下り。近地院ト云テ東照宮ノ御玉殿アリ。夫よりシン鸞聖人ウヘ髪寺(泉堂)ヘ参詣。夫より三条通り大橋宿ニ帰り風呂ニ入、夕飯ヲ投シ寛談臨臥ス。

六月朔日 比エイ山ヘ参登ス。通ノ道ハ三条大橋ノ本より登り道ニ天満宮アリ。夫より矢瀬村近江屋清左衛門方ニテ中飯認ム。夫より山ニ登リ。本黒谷青龍寺(金地)ヘ参詣。円光大師ナリ。夫より釈伽堂ヘ詣ス。弁慶ノ籠リ学文致し処ナリ。但し十五間。夫よりソウリン塔ヲ参ル。総金ナリ。是ハ禁庭より禁門丑寅ニ当り。夫よりニナイ堂アリ。南方ニ夫より伝教大師御玉ヤアリ。浄土院ト号ス。前ニ蓮ノ手洗鉢アリ。台ハシヤク銅、高五尺余。上ニ宝寿ノ玉アリ。是ハ金銀ナリ。夫より開山堂。夫より香堂。猶御法事等アレバ此処ニテ読経アリ。夫より中堂参詣ス。甚此ハ名寺ナリ。但シ廿七間四方ナリ。門ニ会楼(白願)アリ。本寺やねハ銅瓦、鬼瓦ハ真金ナリ。前向三門アリ。地内切石ノ鋪石ナリ。夫より峰ニ小茶屋アリ。休氣ス。同酒一合ヲ求メ四輩タベル。甚深山故冷山ナリ。夫より弁慶水アリ。夫よりキラ、越ヲ歴、五十丁下村里ニ行、休息ス。夫より東山ヲ廻リ、南善寺名物豆腐丹波屋ニ依リ休ム。夫よりシンレン院ノ宮様門内ヲ通り、白川下り、知恩院ヘ参詣。此寺廿五間ニ廿軒。釣鐘高一丈五尺、幅九尺九寸、厚ミ九寸九歩。同三門廿五軒アリ。夫より下向。祇園社ヘ参詣。甚能社ナリ。夫より宿ニ帰り浴シ休食ス。夫より臥り。



本能寺  
行願寺  
下御靈

御所

船岡山  
大徳寺

金閣寺  
平岡社  
北野天神

壬生寺  
五条橋

広隆寺  
清涼寺

二日 西見物ニ出スル。二条寺町通り、本ノウツ寺ハ信長アケチノ為ニ切腹致シテナリ。二条通り、胡川通り、竹山町通り。夫より一条革堂、西国三番ノ寺ナリ。花を立(なをたて) いまはのぞのみ(た)の かう堂の 庭の千草も さかりなるらん。夫より下モ御領八正大明神へ参詣ス。夫より丸田町通り、堺町御所表通り、高ツカサ宮ベリ。同九条様ノ御屋鋪アリ。同五条公ハ管ノ血筋ナリ。同セントウ御所、禁裏ノ御居被為致シ隠居ナリ。御門ハヒワダ、金ノ金具ナリ。同シイ宝ケン、内子所。夫より禁庭ノ東西九尺間百八十間ナリ。東門ハ朝日ノ門と云。南ヲ南門ト云。向ハ白川ノ院様ハ神職ヲ司トル宮ナリ。南門、夫より一条ノ院、御セツ家屋鋪拜ス。向行当リハアリス川宮様処、ヲ、テイ九尺間百八十間程アリ。夫より今手川上ル処通ル。夫より上立売通ル。夫自リ船岡山ニ常盤御前ノ墓アリ。夫より雲林院下拜ス。此寺ハ謠ニイヅル。夫より紫大徳寺へ参詣。是ハ一休和尚ノ居住ノ寺ナリ。同寺中ニ金毛閣ノガク掛リアリ。是ハ利休ノ筆ナリ。右此仁ハ大カクノ御氣ニ入シ人ナリ。同ワキ日暗シノ門アリ。是ハ桃山ニ御殿ニアリシヲ此寺ニアリ。同釈伽堂アリ。同一休和尚問答堂アリ。是ハ美大堂ナリ。同コノへ様ノ御靈拜処アリ。同丹波ノ少将成恒ノ墓アリ。夫より今宮エ参詣。茶屋ニ休、中飯認。社地亦吹ヨノ松アリ。絵馬宜敷ノアリ。麓より高ヂウネ迄八町余ノ間、敷石アリ。京都野辺竹多クアリ。是ハアケチミツ秀ノ植ノ笹藪ナリ。夫より段々町々通行。金閣寺へ参詣。同ハギノ庭ニ南天床柱見リ。同此寺ニテ案内輕ニ付憤氣アリ。夫より平岡ノ御社へ参詣。大神宮チウアイ天皇・大和尊ノ尊・仁徳天皇・天津コトノ皇ノ尊。此社ハ平家より建立ノ社ナリ。当事甚乱損スル。夫より北ノ天満宮へ参ス。ワキニ能アリ、見物ス。同管景陽冬ノ松アリ。則御影移シ松通下ル。壬部地藏へ参詣。則壬部ノ舞台より初ル。同烏丸通り。黒門通り。東ノトウ井。相ヒノ町。高橋通。下子町。夫より五条橋前メイドノ浦扇子ヲ出処ナリ。五条橋平井下ル。夫より五条橋渡ル。宮川通り。左ニ新宮川丁。古宮川。東石ガケ通り。向ハ石掛ケナワテ通り。富札町。末吉川。夫より大和橋。新橋通り。新門前通り。古門前通り。夫より町々通り、旅館へ歸リ臥眠ス。

三日 愛宕山へ登山。其道ニウツマタ広隆寺へ参詣。夫より五台山清涼寺へ参詣。わしの山 ふたゝひかげの うつりきて 嵯峨のゝ露に 有明の月。夫より御山麓清瀧橋を渡り、御本社へ参詣ス。夫より月輪

月輪寺

仁和寺  
妙心寺

祇園社清水寺

高台寺

伏見

石清水八幡宮

大坂

の寺へ参詣。此寺ニ時雨の桜アリ。月影の いたらぬ里は なかれとも なかむることの 心ニぞあれ。此寺十八番法然聖人。九条兼実公ノ桜。新鸞聖人。春くれば 以僧も桜の しくれして すえの世までもぬくう袖かな。夫より清瀧を下り、甚難所ナリ。中々壮年の人たるものへなくてハ行く事無用。麓茶屋ニ依り、中飯認ス。同上向ニ谷ニ土瓦ナゲ甚面白。夫より下向。広沢の池ニ左ニ見通り。夫より御所御室へ参詣。同五重ノ塔アリ。本堂。同外堂三門アリ。此寺を仁和寺ト云。夫より妙心寺詣。甚奇麗成寺ナリ。同ケツロロ松アリ。同四本松アリ。又三門アリ。蓮池に石橋アリ。夫より成巖寺へ。夫より二条御堀ヲ通り町内へ出ル。夫より町々通り帰り休ス。

四日 九つ時。京都三条大橋豊後屋友七宿出立。祇園社へ参詣後ニ而借馬ニ乗ル。夫より大谷下拝ス。夫より光大寺へ参ス。夫より清水寺参ス。下向。伏見屋茶屋依休ス。テンカク給ル。夫より段々町々通り、伏見油掛西教寺へ皆々参り馳走ニ合。夫より小道具屋へ宿とり宿ス。

五日 川舟ニ乗りヤワタ八幡ニ参詣。甚名社ナリ。本社式十四間四方。社内広ク御殿黄今ノトイアリ。厚ミ式寸七歩ニ幅式尺余、長十三間。同石塔籠四百余アリ。石ノ大鳥居式つアリ。夫より上ミニ淀ノ城ヲ見テ下ル。夫より川村々下リテ大坂ノ川ニ到り、高橋榭屋へ帰り宿ス。五日夕方ナリ。

六日 休ミ。

七日 高野へ登山。

通恒の旅日記 中冊

京都より五つ大坂迄帰り、六日休息して町内見物ス。同芝居座間ニ致ス。夫を見物。夫より小橋屋へ帰りニ依りて買物致し、宿ニ帰り。

住吉大社

難波屋名松

堺

七日 大坂出立。高野山へ登山ス、道々段々宜敷処アリ。道々住吉天神へ参詣。此社六、七ケ年跡ニ出火アリ、焼失ス。此節御本社斬ク建チ 未タ前躰ニ相成不申。甚景地ナリ。同高塔籠アリ。反橋アリ。道処々ヨリ寄進ノ石塔籠多端アリ。夫よりなにわへ屋ノ松を見物ス。余年数を積ど緑り若松ニ勝さりさかへ。同東西南北へ枝広ク指し廻ル。夫より堺名物刀物求ム。夫より妙国寺ノソテツ見物。甚大成モノナリ。此

三日市

紀見峠

橋本

高野山

奥ノ院

龍泉院

大坂

道頓堀

寺七塔アリ。夫よりかわら町さつま屋宇右衛門方ニ而中飯を認ム。夫より茂津屋茶屋に依り休ス。夫よりふみの木村通り、夫より三日市中程長野屋次右衛門方ニ而宿取り泊ス。

八日 同郷出立。色々アリテキミイ峠登り。夫より下臨、橋本村へ出、川を渡り、三軒丸屋七右衛門方ニ而中飯認。夫よりかむろノ宿へ巷里。夫よりかねの宿を通り。夫より紙ノ宿、大家ノ孫兵衛方ニ而晩飯認ム。夫より高野山、坊迄五十町行き、実ソウ院谷龍泉院へ着シ、竹葉をたべ、奥ノ院へ参詣。甚幽玄靈地ナリ。老ノ橋、式ノ橋。無名ノ橋に同大師ノフナアリ。是ハ前年子供フナヲ竹櫛ニ指し指たるを御囉被成、石橋ノ下ニ捨られけれハとて、胴中ニ右クシニ指たる記シアリ。夫より下向。木食聖人堂へ参詣。夫より龍泉院へ暮六つ時ニ歸りて御膳をたべる。

九日 龍泉院出立。夫より高野山七塔ガラン見物。甚地中広建物等げやふ山ニふとく、瓦銅ニシテ殊ニ遠山ニ大成石ヲはこび、人力ト見へ難く程ニ御座候。本堂ト云分九尺間十七間。但し式重やねナリ。夫より下向。玉屋次右衛門方ニ依り、中飯認ム。此茶屋ハかるかやみだいノ宿とて、石蔵丸ノ縁記アリ。夫より歸路ノ節、雨八つ過ニ降り、三日市長のや次右衛門方に泊り。其夜雨降り。

又十日 雨雲。同処出立。中飯。堺さつまや宇右衛門方ニ而中飯認。夫より塗中ニテ雨ニ逢ひ、夫より町々通り、大坂四つ橋ニ依りきせる色々見合、夫より高橋榎屋ニ戻り休業ス。

十一日 相続キ雨、上り町々通行ス夫より三ツ井行買物致ス。

十二日 曇天。

十三日 町々出買物。

十四日 同難波祭り。十四日より十五日、嶋の内祭礼。甚作り物多ク、大鼓・檀しり沢山ニ出ル。

十六日より十七日御領祭り。甚賑敷。十八日十九日天神祭り

同十八日 難波新地へ借馬乗り参ル。松蔵一クラ、拙五つクラ。夫より道頓堀へ出て町々通り帰り、空腹□□屋へ依したゝか給る。夫より宿に帰り夕飯ス。其夜大坂芝居中役者ねりものニ出ル。是を夜見物ニ出ル。甚美敷事ナリ。誠ニ大坂ニ稀ナルコトナリ。

十九日 前夜九つ時より雨降り。同廿日雨降り。同廿一日雨降り、閑居ス。廿日雨ふり稻荷御祭。廿二日

兵庫

曇天。廿三日座間御祭。廿四日。廿五日清天ニ成、天神御祭。

廿六日 大坂宿槌屋七兵衛方出立。あち川へ下りてわり見合。其夜泊り。

廿七日 朝七つ時出帆。天気克ク、兵庫迄渡り。皆々無患此迄歸しと歡ひ、大鯛を求、色々料理致し、夕飯認ム。其夜泊り。廿八日出帆仕らんと思ひし処、大西風ニ止船。同廿九日逆風。布引瀧間六月朔日逆風。二日同様。尤風も前々日とハ少々弱くなりて、和田ノ鼻迄船を浮ケ、其夜泊り。

明石  
木場川  
九艘

三日 朝余程風も衰り、出帆致、浜辺を綱にて茂作・政藏舞子の浜迄引。其前敦盛ノ御塚へ鳥渡上り参詣。前茶屋へより船に戻り、名物ソバ取り遣、船ニテ皆々任好ミ飲食ス。夫より浜辺をおし、明石迄参ル。甚浜辺よき処なり。此処ニ而しを待チ、八ツ退出帆。はりま灘渡り甚おたやか成天氣ニ相成ル。其夜七ツ時迄奔り、キバ川のスソニ掛り泊眠ス。尤此川ハ姫路より少シ東ニ当ル。(四日)朝五ツ上刻ニ出帆ス。夫より室津迄参り、水ヲ取り、此時九つナリ。夫より風呂へ入、髪も結、休息して夕方ニ及ひ、夕飯ヲタベ、出帆ス。夫より四里参り、九艘ト云処へ泊り、天気克ク。

牛窓  
犬島

五日 同処出帆。五里程走り、牛窓ノ小島へ掛り、汐待致し、備前ノ内犬島迄参り泊り。尤海里牛窓ノ小島三里ナリ。

高松沖

六日 朝、水を取り出船。相続キ西風。甚込り居。夫より逆風を曲帆して高松ノ沖へ掛り汐待致ス。時刻八つナリ。前日同刻過キ、北ノ方微雷ニ三鼓アリテモ格別北東風ニモナラス。尤高松沖ニ掛り居し時ハ北東ニ当リ夕雨ト見ゆる甚面白景氣ニナリ。追々夕方ニ及、風もそよ／＼と順風ニ成り、高松沖を出帆して多土津ニ掛り泊ス。

多度津

(七日) 朝六つ時仕度致、宿中村屋善右衛門方へ宿をとり、風呂ニ入皆々身仕廻致し、沓疋馬を借り、伯父様、おば様、安榮得屋御内三人乗り行。同途中一里半程行、馬式疋借り、四人乗り行ク。夫より金比羅麗本家とらや惣右衛門方ニ宿とり、茶漬たべ、象頭山へ参詣ス、社内不残敬拝して下向ス。夫より宿ニ歸り中飯認ム。

金比羅

献立

椎茸 ふ

猪口、白瓜胡麻ふりかけ

ざまし

ふろふ茄子

四寸、茶屋とうふ・生姜 香のもの

こんふ

御飯

硯ふた 梅干 味瓜

かまほこ 竹の子

ふろふ

竹葉

### 善通寺

夫より皆々休眠してあり。仕払致し、右の馬ニ乗り宿を立。時刻ハ八ツ過。夫より道々通行。善通寺へ参り。歸りに善通寺村茶屋六蔵方ニ依り、一興の酒杯アリテ甚面白、取分茶屋のかゝ、しゆべらしゆの山の神、いかづちニまさされる女房なり。夫より宿中村屋源右衛門方歸り、ふろふに入、何ヶ仕払致し、呉六つ時出立。船ニのり無程出船して凡巷里半行きて、獅子と云処ニ掛り、宿ス。

### 志々島

### 尾道

### 島居先生

夫より八日 同島を早朝船出して青島を左ニ見て通り、甚ダ遂風爰地よし。夫より島々を経て尾野道へ正七つ時着シ、神社・仏閣へ参詣。獺大人、拙とは島居先生へ無音見廻ニ鳥度伺公致し。色々馳走アリテ帰船アリ。夫より堀川沖ニ掛り宿ス。此時夜四つ時ナリ。夫より外、御婦人方ハ寺社町々通路アリテ買物認め船ニ御歸り被成候而宿ス。

### 大三島

夫より九日 尾道出船。朝五つ時三原・糸崎ノ沖を通り、夫より島々左右ニ見て三島明神へ参詣ス。時刻ハ九つ。夫より下向。虎屋ニ依り湯を遣、皆々身潔上島。社内甚広ク楠の木ノ大木三処程アリ。其外石塔籠百程アリ。同末社数々アリ。御馬モアリ。鳥居腋ニ芝居小屋モアリ。夫より半町モ下り、富座アリ。夫より船本へ歸り乗船。冗波様を船より拝稽して、七つ時出帆ス。夫より三手洗沖を通り、豊島ヲクビ島泊り。其夜雷鳴雨降り。尤格別モ降ラス。

### 屋久比島

十日 早天。茂作<sup>(病)</sup>疾を患へ。拙単方常山飲を投シ、灸大ツイヒト點ス。夫より錠ヲ取り、水ヲ求。夫より引汐ニ誘ヒ出帆ス。尤三島より豊島ヲクビ島迄七里ト云ナリ。同鹿老渡迄五里ト云処ナリ。